

編集長が選ぶ2005年・尾州産地、この1年



05年、尾州産地、この1年

J B パリ展など進んだ海外戦略

今年も尾州産地では様々な動きがあった。商品開発、技術開発、構造改善、販路拡大、海外戦略など、枚挙にいとまがない。編集長の独断で今年の「ニュースあれこれ」をまとめた。

***** 万 博 *****

・田中テキスタイルは4月、愛知万博会場で行われた「ECOテキスタイル・アンド・ファッションショー」(愛知県主催)にケナフ、ホワイトパイン(白松)、大豆繊維を提供した。愛知県下の専門学校生が作品を制作し、ショーで見せた。

・日本博覧会協会は9月、「自然の英知とフ

アッション」をテーマにしたファッションショー「ジャパン・ファッション・ファンタジー」を開催したが、竹、紙、トウモロコシ、大豆などの素材の一部を尾州産地企業が提供した。デザイナーは森英恵氏など。なおこれらの素材解説はFDCが担当した。

***** 海外戦略 *****

・JB(ジョイト・尾州)ブランド構築事業実行委員会は3月、尾州産地として初めての海外展示会をパリ・ルーブル美術館で16社1グループが参加して行った。06年春夏向け生地160点、製品4体のほか、江戸時代の陣羽織、火事羽織、明治天皇着用のプロックコートなど日本のテキスタイル文化収蔵品も展示した。この展示会は主に「JBブランド」の欧州における訴求を目的としたものだが、来場者368名で、多くが尾州産地素材と衣装文化に感嘆の声を上げていた。

アルマーニなどが尾州素材リクエスト

同委員会は9月、11社が参加して第2回JBパリ展示商談会をテル・ドゥ・ルーブルで開催した。会期中に278名が来場し、46社から488点のサンプルオーダーがあった。会期に先立って先遣隊(小池・小池毛織社長、墨・艶金興業社長)がイタリア、フランスの著名アパレルを訪問し、10社から152点のサンプルオーダーを確保していた。その中にアルマーニ、エルメス、モスキ

ーノ、C/ディオール、フェレなどの世界的なアパレルが含まれており、朝日新聞、日本経済新聞などがトップ記事として取り上げ、尾州産地の評価を高めた。

・中伝毛織は2月、上海で05年秋冬物展示会を開催。約1000を展示した。現地アパレル、日系アパレルなど多数が来場し、イタリアのテキスタイルデザイナーとの共同企画「テクスター」、日本ならではの後加工を施した「尾州の匠」など提案した。また同社は9月、上海に代表事務所を開設した。

・いわなかは3月、パリの製品展「トラノイ」に出展した。また同社は9月、パリで開催されたPV(プルミエールヴィジョン)に初めて出展した。

・安福繊維は5月、日中3社合弁による見本専門の糸染め会社嘉興茶福染色有限公司を設立した。資本金80万ドルで、安福繊維の出資比率は20%。5*から100*まで噴射式と回転式の染色機50台を導入し、月産50*の生産能力で立ち上げた。半年後に50

台を導入し、月産60トまで引き上げる。

・西川毛織は中国に「馬鞍山西川毛織有限公司」を設立、10月、操業を開始した。総投資額は600万ドル、資本金は300万ドルで、豊田自動織機のエアージェット織機6台、ベルギー・ピカノールのレピア10台など設置した。年間生産量9万反のうち、当面中国工場の生産は20%以内に押さえる。

06年1月、ピッティウオモに出展

・「尾州房」は11月、2006年1月のピッティウオモに出展する、と発表した。三幸毛糸紡績、時田毛織、野村産業、艶金興業で構成する尾州房グループはアドバイザーなどの協力を得て、メンズのスーツ、ジャケット、パンツ、シャツなど出展する。

イベント

・FDCは2月、42社の参加を得て第2回ジャパンヤーンフェアを開催。来場者は3000名を上回り、日本を代表する「ヤーン展」として2回目にして定着した。
(第3回は2006年2月7~9日)

・FDCは6月、第3回JB(ジョイント・尾州)06年春夏東京展を開催した。15社1グループが参加した。前年6月に行った第1回展を上回る906人の来場者があり、5869点のサンプルリクエストがあった。

人材・人事

・日本毛織物等工業組合連合会(毛工連)理事長に6月、長大(株)の長尾大八郎氏が就任した。
・経済産業省は6月、「05年度産学連携製造中核人材育成事業」で、FDCが中核教育機関となって進めるプロジェクトを採択した。

・ザ・ウールマーク・カンパニーは9月、「羊毛研究会」を結成、年12回の講座を行う予定。
・尾州・テキスタイル・カレッジは10月、受講生が2002年の開講以来500名を超えた、と発表した。

伝統・文化

・尾州産地の歴史を物語る貴重な資料や設備を完備していた博物館「テキスタイル館」が

3月、閉館した。

M & A提携

・神田毛織は3月、イトイテキスタイルの国内営業権の一部を譲り受けた。
・御幸ホールディングスは5月、紳士服地の世界的卸売り会社を傘下にもつフランス・ドメール持ち株会社と資本提携した。御幸子会社・イギリス・ミノバとドメール子会社・ドメール服地事業会社が株式を持ち合い、ドメ

ール服地事業とファッション事業に対してミノバが生産機能を提供する。
・みづほ興業は8月、中小繊維製造事業者自立事業にインパナ事業が採択されたのに伴い、国内の加工メーカー11社と連携、その技術を活用した特徴ある織物の加工・製造・販売に本格的に乗り出した。

構造改革・経営革新

織物をバーコード管理

・いわなかは4月から扱い生地のバーコード

管理を始めた。市販のバーコードリーダー機、読み取りコンピュータを導入したほか、独自の管理ソフトも開発した。品番、生地幅、混率、目付けなどの情報を入力、ハンガー見本すべてに個別のバーコードを付けた。

・岐阜県毛織工業組合は8月、組合員企業の

営業活動を支援するため、販売先の売掛債権を買い取るファクタリングサービスを始めた。併せて販売を代行するエージェント、顧客ニーズにあった素材開発のコーディネーターとも契約した。中小繊維製造事業者自立事業に採択され、実施するもの。

***** コラボレーション *****

・いわなか、野口は11月、経済産業省・中小企業基盤整備機構が行った「CBF」(クリエーション・ビジネス・フォーラム)に参加した。

・いわなかは10月、東京で鈴倉インダストリー、丸萬商店、佐藤繊維と共同でテキスタイル見本市「プレミアムジャパンプラブ」を開催した。

***** 新技術 *****

世界初のインレー織物開発

・愛知県産業技術研究所・尾張繊維技術センターは9月、既存の織機に取り付けるだけで、織物の必要な部分によこ糸を織り込むことができる(インレー)装置を世界で始めて開発した、と発表した。これにより織物に自在

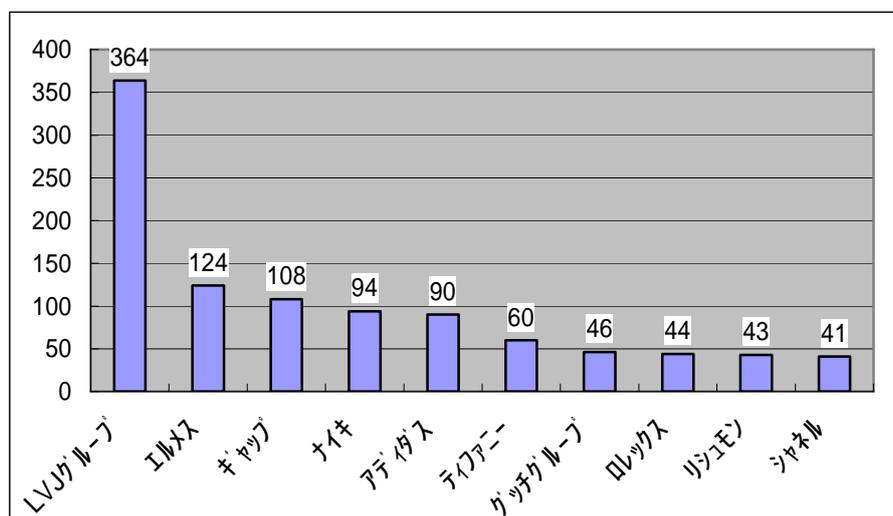
な柄が出すことが可能になった。

・ソトーは9月、アメリカの加工溶剤メーカー・ナノテックス社とライセンス契約を結んだ。同社の撥水・撥油などの機能加工「ナノテックス」で、ウールを中心とするテキスタイルメーカーからの受託加工に応じる。

====読む・統計====

わが国、繊維・ファッション業界は依然厳しい状態にあるが、一部に好調な業界がある。海外有名ブランド・ジャパン社がそれ。帝国データバンクがまとめた海外ファッションブランドジャパン社(日本法人)の04年度法人所得申告額は計1258億円で、調査開始の93年以降で最高を更新。前年比は3%増で、03年の18%増よりは伸び率は下がったが、上昇勢いに変わりはない。

<ジャパン社申告利益 = 億円>



この数字にはないが、イタリア・アルマーニグループの05年上半期の連結売上高は前年同期比8%増となったが、日本での販売は13%増だった。尾州産地としても輸出、ジャパン社を含めて「元気印」の海外アパレル対策が急務だ。